

社会福祉法人  
秋田県社会福祉事業団 **阿桜園**

# 創立 60 周年記念誌





## 阿桜園

### 阿桜園の名称について

ここ横手に、今からおよそ四百年前の戦国時代に城があり、この城は、山城で小野寺泰光という人が築いたもので、朝倉城といました。

佐竹候が、秋田にまいてから、最上藩の防備を考え、須田美濃守を城代としてつかわし、同時に美しい花木にかこまれたこの城の名称を阿桜城とかえました。

横手川を外堀に横手城南高校付近を内堀とした阿桜城は、山城としてはもっとも理想的なものであって、横手の防波堤となって市民を守りました。

今般園に、この城の名を用いたのは、こうした歴史の深さを背景に佐竹候も心をうたれてかえた城の名を、利用者の幸せのために用いることにしたものです。



# 創立 60周年 記念誌

白ページ

# 目 次

あいさつ..... 1

秋田県社会福祉事業団 理事長 関 根 浩 一  
阿桜園 園長 鈴 屋 和 基  
阿桜園保護者会 会長 神 谷 長 一

創立60周年に寄せて..... 4

やまぶき棟 右 谷 学  
あかしや会 会長 藤 川 健  
地域自治会 会長 工 藤 和 也

思い出のアルバム 60年のあゆみ..... 5

施設の紹介..... 22

施設の概要..... 24

施設の沿革..... 25

阿桜園歴代園長..... 26

あざくら園のうた..... 26

あとがき..... 27

白ページ



## 創立60周年を迎えて

秋田県社会福祉事業団 理事長 関根 浩一

昭和39年5月、横手市赤坂仁坂の地に県内では当時の秋田県高清水学園(秋田市)について2番目の知的障害児施設として「秋田県阿桜学園」が開設されました。

以来、当事業団が管理運営を行ってまいりましたが、このたび創立から60周年の節目のときを迎えることができました。

まずは、「秋田県阿桜学園」開設以来60年の長きにわたり、当事業団の運営に対しまして、秋田県をはじめ地元の横手市、関係機関ならびに地域の皆様、保護者会の皆様から温かいご支援、ご協力を賜りましたことに衷心より厚くお礼申し上げます。

秋田県阿桜学園開設以来、入所利用児童の健全な成長を見守りつつ、昭和60年には在宅で生活している子供達への支援事業として「心身障害乳幼児地域療育事業」を開始(現:秋田県障害児(者)地域療育等支援事業)したほか、平成2年には、障害の重度化や年長児の増加等に対応するため児童50名、成人70名の県内初の児者併設型施設として全面改築生まれ変わりましたが、これを機に施設の名称を「秋田県阿桜学園」から「秋田県阿桜園」と改めております。

また、平成15年には在宅の重症心身障害児(者)の方々には日常生活動作や運動機能の維持・向上等の必要な療育支援を行うため重症心身障害児(者)通園事業を開始(現:生活介護事業)したほか、施設運営においては、生活の場、活動の場としてだけでなく、地域福祉の一翼を担うべく相談支援事業をはじめ、学校児童のための放課後等デイサービスや地域生活の場としてのグループホームの経営にも取り組むとともに、施設で生活する利用者の安心安全を守るための事業継続計画を策定し、地域住民や近隣の支援学校・福祉施設・保育所等との合同による防災訓練を定期的実施するなど、防災対策の強化も図ってまいりましたが、これらはすべて地域の皆様のご協力がなければ現在までの当園の施設運営はできなかつたものと考えております。

なお、当園の運営形態も県からの管理委託から指定管理者制度へ移行し、平成23年からは施設の無償貸付による当事業団の独自運営へと、そして平成28年には秋田県から施設の譲与を受けて名称も「秋田県阿桜園」から「阿桜園」と改め、名実ともに当事業団の独自施設としての経営へと大きく変化してきております。

開設から60年間の歩みの中では、福祉政策も地域の状況も大きく変化しており、この間幾多の困難な場面もございましたが、皆様の温かいご支援に支えられ、これまで乗り越えてまいりました。

当法人の基本理念である「私たちは、利用者一人ひとりの自己選択と自己決定を尊重し、利用者が地域社会の中で安心して生活し、あらゆる分野の活動に参加することができ、希望と喜びに満ちた人生を送ることができるよう、その実現に向け誠心誠意努めます」を、これからの未来に向けたメッセージと捉え、より一層利用者の皆様の支援に努めてまいります。

今後とも、私たちの「阿桜園」が、さらに皆様に慕われる施設となれるよう、皆様方からのさらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 60周年を迎えて

阿桜園 園長 鈴屋 和 基

「阿桜学園」の名称は、戦国時代、美しい桜に囲まれた「阿桜城」が現在の横手公園内にあり、施設を開設するにあたり、この子(利用者様)の幸せのためにと祈りを込め「阿桜学園」としたとの記録があります。

こうした歴史的背景がある「阿桜園」は今年で60周年を迎えました。

阿桜園の園庭にある樹齢50年以上の桜の木も今春満開となり、利用者さん一人ひとりの成長を見守っていただいております。

この60年の間、秋田県並びに横手市を始めとする関係機関の皆様、地域の皆様、保護者の皆様方には本当に暖かいご支援とご指導頂いていることに心から感謝申し上げますとともに、開設以来、日々の支援を欠かすことなく継続して頂いた諸先輩方、そして、利用者の皆様には、感謝と共に深く敬意を表したいと思います。

「阿桜学園」が開設された昭和39年当時に比べ、現在の障がい福祉を取り巻く社会環境は大きく様変わりしており、平成2年には「秋田県阿桜学園」から「秋田県阿桜園」、そして、平成28年には秋田県から施設の譲与を受け「阿桜園」と施設名を変更し現在に至っております。

障がい福祉に係る法律や制度はその時代に即した取組みとなっておりますが、「利用者様の人権擁護を基軸とした取組み」については開設当時からブレることなく強化推進しております。特に自分の言葉で自分の意思を表現できない利用者様に対しては、「利用者様一人ひとりの心の中には、必ず自分の意思がある」との思いを寄せ、常日頃から利用者様に寄り添いながら「心の声を聞く」支援を続けております。

今後も利用者様の権利擁護に関しては、色褪せることなく取組み強化を継続して行くこととしております。

さて、今日の「阿桜園」として事業運営していく中で、各種の自然災害や新型コロナウイルス等の感染対応については、まだまだ予断を許さない状況が続いておりますが、この先10年、20年先も変わらず、利用者様自身が希望と喜びに満ちた人生を送る事が出来るよう、全職員でご支援させて頂く覚悟でございますので、何卒ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 皆様のご支援に感謝して

阿桜園保護者会 会長 神谷 長一

阿桜園は今年創立60周年を迎えました。昭和39年秋田県で2番目の知的障がい児施設として開設された当時は、障がいを持った子供達に対しての十分な教育が行われる体制がつくられておらず、大部分の方が自宅で過ごしており、阿桜園で施設内学級が設置された時は子供達の教育を受ける権利が保障され、児童、保護者が大いに喜んだと聞いております。そうした時代を乗り越え、開設以来、今日まで利用者本位、「見つめる、認める、見とどける」の姿勢で県南地域の中核的福祉施設としての役割を担ってきました。当施設利用者の保護者として、職員の皆様、ご支援ご協力をいただいた関係者の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

また、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで経験をしたことがない大変な生活を余儀なくされました。阿桜園においても集団感染が発生しましたが、事業団あげての対応により深刻な事態にいたることはありませんでした。コロナ対応にあたられた園長をはじめ職員の皆様の献身的なご努力にあらためて感謝申し上げます。感染法上の分類がインフルエンザと同じ5類になったとはいえ、完全に消滅したわけではなく、今後とも各種感染症への対策など利用者の健康管理について引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

さて、私たちは、平成28年、神奈川県「津久井やまゆり園」で発生した、知的障がいのある利用者19人が命を奪われるという未曾有の事件を忘れる事ができません。事件を起こした元職員は「障がい者は生きている価値がない」「社会に不幸を作ることしかできない」と述べています。しかし、どんな障がいがある子どもも懸命に生きており、一つひとつの命はかけがえのない存在です。

「この子らを世の光に」という知的障がい者の父と言われる糸賀一雄氏の有名な言葉があります。「この子らに世の光をあてるという憐みの政策を求めるのではなく、自らが輝く存在になるようにいよいよよみがきをかけて輝かそう」と言っています。見栄も欲もない障がい児の無垢な存在こそ世の光にすべきであるという至言が障がい児福祉に携る人々によって語り継がれてきました。

障がいの有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性、価値観を認め合い、支え合いながら共存しなければ社会の維持や発展は望めないことをあの痛ましい事件は私たちに訴えているのではないのでしょうか。

最後になりますが、私たち保護者は利用者本人が日々安全、安心に過ごしてほしい。穏やかに笑顔でいる時間が多く、できれば少しでも喜びややりがいを感じる生活をしてほしいと願っております。職員の皆様、関係者の皆様の引き続きご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

# 創立60周年に寄せて

## 「阿桜園の思い出」

やまぶき棟 右谷 学

阿桜園は今年で60周年になりました。  
職員がいっぱいいました。阿桜学園が昭和39年に完成しました。  
阿桜学園での夏の行事といえば夏祭り、海水浴にも行きました。花火やりました。  
秋はスポーツ大会、阿桜園祭、菊祭り、いっぱいありました。  
冬はもちつき会、クリスマス会  
阿桜園は平成2年に新しくなりました。  
スポーツ大会の50メートルで金メダルをもらいました。ボランティアの人が、僕ががんばるところを見ていて優しく声をかけました。  
最後になりますが、みんなといっしょになかよくする阿桜園にしていきたいと思えます。

## 「阿桜園といっしょに」

あかしや会 会長 藤川 健

ぼくが阿桜園でせいかつをはじめたのは小学校に入学したときでした。みんなといっしょに学校へ行っていたのがなつかしくおもいます。ぼくもみんなもすっかりおとなになり、阿桜園も60歳の誕生日をむかえます。  
これまでみんなと協力し、ときにはケンカもしましたが、いろいろなことに取り組んできました。そして、たくさんのなかまと職員にであいました。  
今はコロナウイルスにより、いろいろな事が少しむずかしくなりましたが、これからもみんなと協力しながら、楽しく元気に阿桜園と一緒に70周年・80周年とずっと繋げて行ける事を期待し、あかしや会会長のあいさつとさせていただきます。

## 「地域で生活して」

地域自治会 会長 工藤 和也

私は、平成23年4月1日から、本格的にグループホームの生活が始まりました。  
最初は慣れない生活で不安や焦りもありました。でも、周りの支援員の方達からのサポートもあり、少しずつ生活に慣れてきました。  
私自身も自信が付いてきて、地域自治会の総会で会長となり、周のみなさんと共に協力し合い、頑張っています。  
自治会では、毎年3回食事会を開催しています。春に職員との顔合わせ会、夏は行ったことのないレストランへ行き、冬は忘年会を楽しみました。  
私は、グループホームの生活だけではなく職場でも同じように良いコミュニケーションを取り、頑張っていきたいと思えます。



阿桜園  
60年のあゆみ

平成27年⇒令和6年



阿桜園  
60年のあゆみ



阿桜園

# 60年のあゆみ

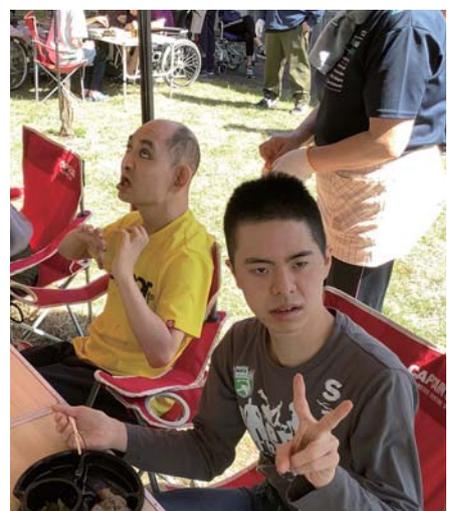


阿桜園  
60年のあゆみ





阿桜園  
60年のあゆみ



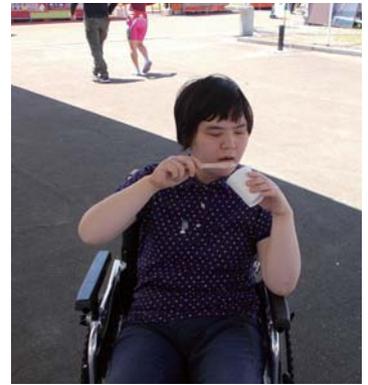


阿桜園  
60年のあゆみ



阿桜園

# 60年のあゆみ



阿桜園  
60年のあゆみ





阿桜園  
60年のあゆみ



阿桜園

# 60年のあゆみ



阿桜園  
60年のあゆみ



# 阿桜園 60年のあゆみ



阿桜園  
60年のあゆみ



## 支援課 やまぶき・あじさい棟

やまぶき棟は、20代から80代の男性34名、あじさい棟は30代から80代の女性16名の方が生活されており、日中はそれぞれの棟へ地域から通所して利用されている方もおり、共に集い過ごしています。

もともとはやまぶき・あじさい棟共に、ご利用者様の支援の度合いを考慮し、それぞれの棟で男性と女性が区画を分けて生活されていましたが、歳を重ねることによる高齢化や重度化、支援の多様化を背景に、令和5年8月、やまぶき棟を男性棟、あじさい棟を女性棟に再編成させていただき、サービスの提供を行っています。

また、平成15年に重症心身障害児(者)通園事業としてスタートした「ほっとハウス」は、現在阿桜園の生活介護(「ほっとルーム」)としてサービスを提供しております。ほっとルームの利用者を含め、15名の方が通所で生活介護サービスを利用されております。

日中は、曜日ごとに活動内容を設定し、一人ひとりの希望に応じた支援を行っています。また、春はお花見・日光浴・散歩、夏はバーベキュー等の食事会、秋は紅葉ドライブ、冬はクリスマス忘年会など四季の変化を感じられるような行事をご利用者様の声を聞きながら計画し、楽しんでいただいております。

高齢・重度化等により、身体機能やADLの維持、低下防止から余暇の充実に至るまで、支援の幅を広げていくことが求められています。ご利用者様一人ひとりのニーズに対応し個々の支援を充実させていくことができるよう、SNS等ネットワーク媒体を活用した活動の提供等、工夫しながら取り組んでおります。

近年は新型コロナウイルス等感染症の影響もありますが、十分な感染対策を講じながら今後もやまぶき棟、あじさい棟の皆様が笑顔で安心して生活していくことができるよう職員一同真心を込めて支援してまいります。

## 支援課 あかしや棟

あかしや棟は、北棟の名称のもと、児童棟として誕生し、平成23年度に「あかしや棟」と改称しました。また、平成30年度に18歳以上の成人棟として、その役割を担い、体育館側から旧こすもす棟へ引っ越しを行いました。現在、20歳代から50歳代の利用者様が生活されており、春には園中庭の桜の木の下で、花見を楽しむことが恒例行事となっています。

生活の場面では、利用者様一人ひとりの個性に合わせた歩行運動や個別課題を提供させていただいております。

活発で明るいあかしや棟の利用者様は、県南ふれあいスポーツ大会や秋田県障がい者スポーツ大会等に積極的に参加し、素晴らしいチームワークを発揮してこられました。各レクリエーション・夏祭りや園祭にも積極的に参加していただき、盛り上げていただいております。

昨今の新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、各イベントへの参加や交流がなかなか難しくなりました。あかしや棟においても令和6年5月に新型コロナウイルスのクラスターが発生しましたが、利用者様はお互いを心配しながら、落ち着いて静養する事が出来ました。保護者の皆様には大変ご心配をお掛けしましたが、利用者様一人ひとりの落ち着いた行動により、現在は皆様元気に仲良く過ごし、様々な感染症に留意しつつ、利用者様が楽しめるようにドライブ外出等を提供させていただいております。

今後も情勢を把握しながら、利用者様一人ひとりのニーズに合わせた活動を充実し、活気あふれる明るいあかしや棟を守り、利用者様にとってより良い生活の場に繋げていけるよう努めさせていただきたく思います。

## 支援課 なでしこ棟

なでしこ棟は、体育館側(旧あかしや(北)棟)に位置する女性棟で、平成30年に編成され、ご利用者様9名、年齢は20代～50代までの方が生活されており、日中はGHから生活介護を利用される方もおります。

日中活動では、歩行運動や個別活動を一人ひとりに合わせながら行い、余暇活動でデザート作りをしたり、季節毎の棟行事や外出を計画したりと、楽しみを持ち充実した生活を送ることができるよう工夫しながら支援させて頂いております。

毎年、春恒例の園庭でのお花見から始まり、レクリエーション、夏祭り、園祭の他、棟での食事会等、季節ごとに様々な行事を企画し、どの行事にも楽しく参加されています。

なでしこ棟の皆様は一人ひとりがとても個性豊かで、穏やかな時もあるれば、嵐が吹き荒れるなんてこともしば

しば…。しかし、嵐も過ぎれば風となり、その後は笑顔が咲き誇ります。そして、優しく寄り添い合う姿が見られ穏やかな時間が戻る、そんな毎日を過ごしています。

ここ数年は新型コロナウイルスに翻弄され、なでしこ棟でもクラスターが発生し、ご家族の皆様、関係者の皆様には多大なるご心配をおかけ致しました。今後も油断することなく感染予防策を講じながら、皆様の生活に安心安全を届けられるよう努めていきたいと思っております。

最後に、なでしこの花言葉には「無邪気、純愛」という意味があります。職員は正に、皆様の屈託のない純粹な笑顔に癒され、助けられていることも多いと感じます。

これからも、個性豊かな皆様とともに、日々笑顔の絶えない「なでしこ棟」であり続けられるよう、職員一同、より一層邁進していきたいと思っております。

## 支援課 ひまわり棟

ひまわり棟は、平成30年4月1日より、障害児入所施設「こすもす」から定員を変更して(定員50名→5名)18歳未満の方を対象とした、障害児入所施設として出発しています。

現在支援学校の小学部6年生1名、高等部3年生2名が在籍し、平日の日中は学校での活動、夜間、休日は食事、入浴の支援や、社会生活に必要なスキルを得るようにしています。支援学校は園から徒歩で5分程のところであり、雨の日も雪の日も雨具や防寒具を使って職員の付添いで元気に登校しています。徒歩通学を継続することで運動となり、健康維持にも繋がっているように思います。また、付添いで歩く職員もいい運動になり、恩恵を受けているかもしれません。

日中は学校での生活が中心になるため、きちんと登校できるよう、起床や朝食時間、身支度ができるように支援し、下校後は手洗い、着替え、学校からの連絡帳より本人の様子や学校行事、準備物の対応などの支援を行っています。学校祭や修学旅行、実習で楽しく過ごしたり、頑張っていたとの連絡があるとホッと胸をなでおろす思いになります。

学校のない、春休み、夏休み、冬休みは、学校からの課題と棟での課題に取り組んで生活をする傍ら、調理実習として手軽に作れる食事や、デザート作りなどを職員と一緒に取り組んだり、ショッピングモールや公園などの施設へドライブ、プールでの水遊びで楽しい思い出になるように取り組んでいます。

18歳という年齢を時間があるように感じていたのにもう目の前と思うことがほとんどです。入学したばかりと思っていたのに、18歳になり選挙の投票について下校後話し合いをして、後日選挙会場に付き添うことがありました。

これから社会の変化にも対応しながら、充実した学生生活になるよう、支援をしなければと強く感じています。

## 地域支援課

阿桜園は令和4年度から支援課、地域支援課の2課体制がとられ、共同生活援助事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業、障害児等療育事業、児童発達支援事業が地域支援課管轄となりました。どの事業も現在の形となるまで制度の改正や時代と共に事業展開し継続してきました。

共同生活援助事業(グループホーム)は、平成30年に二階建て(1棟2ユニット、男女各5名定員)を新築、地域の中で必要なサポートを受けながらご本人の望む暮らしを考えながら生活しています。

放課後等デイサービスにおいては、地域のニーズに答え2カ所で事業展開し今年度の法改正により下校後の過ごし方は安全面と個々の発達に適した支援計画の策定と実践が求められています。

障害児等療育支援事業、児童発達支援事業は昭和60年から開始、施設の持つ専門的な知識と技術を就学前のお子さん、保護者の方々に提供しています。

そして相談支援事業は、日々生活に不安を抱えている方や福祉サービスを利用したい方へ地域のネットワークと連携し、結び付け、一人ひとりの地域生活を支援しています。

創立60周年を迎えた阿桜園。利用される方々からの信頼と笑顔が携わる私達の喜びの瞬間です。この先も当園の運営方針である「子どもから大人まで、それぞれのライフステージに合わせた質の高いサービスを提供していくこと」を再確認しスタートしています。

## 施設の概要

名称 阿桜園  
 所在地 秋田県横手市赤坂字仁坂105  
 設置主体 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団  
 経営主体 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団

定員 生活介護～阿桜園60名 あざくら園40名  
 施設入所支援～阿桜園60名 あざくら園40名  
 障害児入所支援～5名

放課後等デイサービス「さくらっこ」10名  
 放課後等デイサービス・児童発達支援「たんぼぼ」10名  
 短期入所 阿桜園2名 あざくら園2名  
 日中一時支援 阿桜園2名 あざくら園2名  
 グループホーム10名  
 療育「さくらんぼ」16名

目的 ○知的障害者福祉法及び知的障害者権利宣言の精神をふまえ、社会適応能力を高めるとともに、社会自立の向上を目指し、地域に開かれた施設づくりに努める。  
 ○児童福祉法及び児童憲章の精神をふまえ、児童を適切に保護するとともに、個性と能力に応じた指導を行い、社会適応能力を最大限に伸ばさせる。

施設の規模 敷地面積 21,939.357㎡

鉄筋コンクリート平屋建 延べ面積 5,340.63㎡

内 訳	管 理 棟	681.96㎡	サービ	ス棟成	524.28㎡
	成人やまぶき	1,002.76㎡	人あ	じさい	803.51㎡
	成人あか	しや	604.22㎡	成人な	でしこ
	作業訓練	棟	256.20㎡	児童ひ	まわり
	重心療育	室	70.74㎡	体 育 館	416.50㎡
付 属 棟	車 庫 棟	89.60㎡	倉 庫 棟		34.70㎡

計 5,464.93㎡



## 施設の沿革

昭和39年5月11日	知的障害児施設として設置される。(定員50名)…「秋田県阿桜学園」
昭和44年9月1日	施設内特殊学級開設する。
昭和45年4月1日	指導棟、北寮、会議室、体育館、職員室、食堂を増設する。(定員100名)
昭和47年4月1日	重度棟(東寮)増築する。(定員120名)
昭和48年4月1日	特殊学級が横手市立南小、同南中学校阿桜分教室となる。
昭和50年4月1日	分教室が小学部2学級、中学部2学級となる。
昭和53年4月1日	分教室が小学部3学級、中学部3学級となる。
昭和54年4月1日	養護学校の義務化により学齢児全員学籍取得する。
昭和54年6月4日	秋田県立南養護学校へ学齢児全員就学となる。
昭和59年10月3日	開園20周年記念式典がおこなわれる。
昭和60年10月1日	心身障害乳幼児地域療育事業始まる。(さくらぼルーム)
平成元年8月30日	児者併設に向けて全面改築工事始まる。
平成2年4月1日	管理棟、サービス棟、成人西棟、成人東棟竣工する。
	知的障害者更生施設が設置され入所定員、成人70名、児童50名の児者併設施設となる。「秋田県阿桜園」と改称される。
平成3年4月1日	児童北棟、児童南棟、職業訓練棟、体育館、車庫棟、倉庫棟竣工する。
平成3年6月30日	竣工式がおこなわれる。
平成6年4月1日	グループホーム「希望」開設。バックアップ施設となる。
平成6年6月30日	創立30周年記念式典がおこなわれる。
平成8年4月1日	秋田県立横手養護学校高等部の開設により9名が入学。
平成9年10月1日	秋田県障害児(者)地域療育等支援事業が開始される。(心身障害乳幼児地域療育事業が廃止)
平成14年4月1日	養護学校児童生徒放課後生活支援事業が開始される。
平成15年10月1日	重症心身障害児(者)通園事業が開始される。
平成16年1月15日	グループホーム「あさひ」開設。バックアップ施設となる。
平成16年10月31日	創立40周年記念式典がおこなわれる。
平成18年4月1日	成人支援課と児童指導課を統合し、支援課となる。
平成18年10月1日	支援課児童棟において、契約制度が開始となる。
平成19年4月1日	支援課成人棟において、自立支援法に基づく新体制が開始となる。
平成22年3月24日	スプリンクラー工事施工となる。
平成23年4月1日	支援課成人、児童をそれぞれ増設する。各棟の名称を変更する。
	ケアホーム「あざみ」開設。バックアップ施設となる。
	冷暖房設備(電気)、給湯設備(ガス)、電気設備改修工事施工なる。
平成24年4月1日	児童福祉法の一部改正に伴い、新体制が開始となる。
平成26年4月1日	障害者総合支援法に基づき、ケアホーム「あざみ」がグループホーム「あざみ」に変更になる。
平成26年11月11日	管理棟玄関車寄せ屋根新設工事完成する。
平成26年11月26日	創立50周年記念式典がおこなわれる。
平成27年4月1日	放課後等デイサービス事業が開始される。
平成27年11月4日	グループホーム「希望」がアパートに移転する。
平成28年4月1日	秋田県阿桜園から名称が阿桜園に変更となる。
平成29年2月28日	生活訓練事業(定員11名)廃止。
平成29年3月1日	重症心身障害児(者)通園事業が生活介護事業に組み込まれ、定員変更となる。(定員64名→75名)
平成29年10月12日	管理棟・サービス棟屋根防水改修工事完成する。
平成29年10月23日	あじさい棟(東棟)屋根防水改修工事完成する。
平成30年1月31日	ひまわり棟(児童北棟)改修工事完成する。
平成30年4月1日	障害児入所施設定員変更となる。(定員50名→5名)
	新たに障がい者支援施設、「あざくら園」入所40名、生活介護事業40名が開設となる。
	グループホーム「希望」「あさひ」「あざみ」の3棟(定員14名)を
	グループホーム「希望Ⅰ」「希望Ⅱ」1棟2ユニット(定員10名)に変更。
令和元年7月31日	西棟・北棟・南棟屋根防水改修工事完成する。
令和2年8月31日	屋根・外壁改修工事完成する。
令和3年4月1日	「阿桜園」施設入所支援事業が定員変更となる。(定員70名→60名)
令和3年8月1日	放課後等デイサービス事業「さくらっこ」を横手町四ノ口で開始する。
	「阿桜園」児童発達・放課後等デイサービス・生活介護多機能(ほっと)の
	生活介護部分を「阿桜園」に吸収し、定員75名から70名に定員変更。
	「阿桜園」児童発達・放課後等デイサービス定員10名開始。(たんぼぼ)
	地域支援課を新設する。
令和4年4月1日	
令和5年4月1日	「阿桜園」生活介護事業が定員変更となる。(定員70名→60名)

## 阿桜園歴代園長

昭和39年5月	初代 籠 林 順 次	平成15年4月	11代 高 橋 章
昭和51年4月	2代 高 橋 康 次	平成18年4月	12代 石 山 久 幸
昭和53年4月	3代 伊岡森 長治郎	平成21年4月	13代 高 山 久 俊
昭和59年4月	4代 相 馬 哲 郎	平成24年4月	14代 戸 嶋 正
平成元年4月	5代 深 谷 和 夫	平成27年4月	15代 小 沢 久 範
平成2年4月	6代 佐々木 盛 輝	平成28年4月	16代 高 橋 イク子
平成5年4月	7代 鎗 目 忠 治	平成31年4月	17代 阿 部 由美子
平成7年4月	8代 佐 藤 敬 二	令和3年4月	18代 澤 石 勉
平成10年4月	9代 藤 井 健 吉	令和5年4月	19代 鈴 屋 和 基
平成13年4月	10代 高 橋 齊		

## あざくら園のうた

高橋 武二 作詞・作曲

- 中山のむこうから  
まっかな 朝日が よびかける  
「きょうもなかよく げんきよく 力いっぱいがんばろう！」  
そうだ  
みんなで 手をくんで あかるいあざくら園つくりましょう
- 仁坂の林から  
かわいい ことが よびかける  
「つよく やさしく うつくしく はげましあってがんばろう！」  
そうだ  
みんなで 手をくんで たのしいあざくら園つくりましょう
- 西山のむこうから  
まっかな 夕日が よびかける  
「さよなら みなさん ごきげんよう あしたもまたよろしくね」  
そうだ  
みんなで 手をくんで 希望のあざくら園つくりましょう

## あ と が き

阿桜園が創立されてから、60周年を迎えることができました。

これもひとえにご利用者様、ご家族様をはじめ関係各所の皆様が当園に深い愛情を持ち続けてくださったお陰だと思えます。

職員一同心から感謝申し上げます。

この60年の歴史の中から私たちは、先輩の尊い体験に学び、これからも常に改善向上し続け、これから10年、20年と阿桜園が皆様から親しまれ頼れる施設であり続けることを目指します。

最後になりましたが、この60周年記念誌が皆様にとって阿桜園を語り合う際の一片の思い出になって貰えれば幸いです。また、編集にあたりご協力いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。

## 阿桜園創立60周年記念誌

---

発行年月日	令和6年12月
発 行	阿桜園 横手市赤坂字仁坂105 TEL.0182-32-6085 FAX.0182-32-7359 メールアドレス azakuraen@fukinoto.or.jp ホームページ <a href="http://www.fukinoto.or.jp/azakura/">http://www.fukinoto.or.jp/azakura/</a>
編 集	記念誌編集委員会

---

白ページ

白ページ

